

データドリブン型への変革を支えるプラットフォーム“Service Innovation Core”

規制緩和と技術革新に伴い異業種が地域金融機関の事業領域に参入する一方、地域金融機関のデータに基づく新たなサービス提供が可能となった。こうした背景の下、NTT データは銀行内外のデータの一元管理及びその分析、活用による業務・サービスの革新を実現する基盤として、“Service Innovation Core (以下、SIC)” の構築を地銀共同センター参加行の協力のもと企画推進している。

地域金融機関のビジネスモデル変革に対応するデータ管理・活用基盤の必要性

顧客ニーズの多様化や競争激化、IT 技術の進歩等から、地域金融機関はこれまでの KKD（勘・経験・度胸）をもとにしたビジネス推進から、多種多様なデータの活用・分析による『顧客ニーズを先回りしたコンサルティングモデル』、『外部機関や異業種と連携した新サービス』の創出といったデータドリブン型経営への変革が求められている。

SIC の全体像

SIC の全体像は図 1 のとおりで、①グループ情報含む銀行内外の情報（金融・非金融）を一元管理でき、②他社・外部サービスや行内システムと柔軟かつ鮮度良く接続し、③ AI 技術を用いてそれら蓄積したデータの高度な分析・活用が可能となるプラットフォームであり、④パブリッククラウド上で稼働することで、拡張性・柔軟性・アジリティを確保していく。



株式会社 NTT データ
第二金融事業本部
オファリング推進室 コンサルティング&セールス担当
(左) 部長 南 宗敏氏 (右) 課長 上野 洋介氏

今後の展開

まず、データ利活用の土台を作るべく、散在したデータを顧客軸で一元化した DWH を初期スコープで整備する。その上で、そのデータをしっかり使いこなし、分析し、ビジネス成果を創出させるために、当社として『分析・活用サポートチーム』を立上げ、利用行とともに、その知見・ノウハウの共有と人材育成まで取り組んでいく。また、地銀共同センター参加行と共同で推進することで、単独構築に比べて大幅に TCO の低減を図るとともに、利用行全行分のビッグデータを活用したより高度な横断分析等も可能とすることで、地域金融機関のイノベーションを伴走型で支援していく。

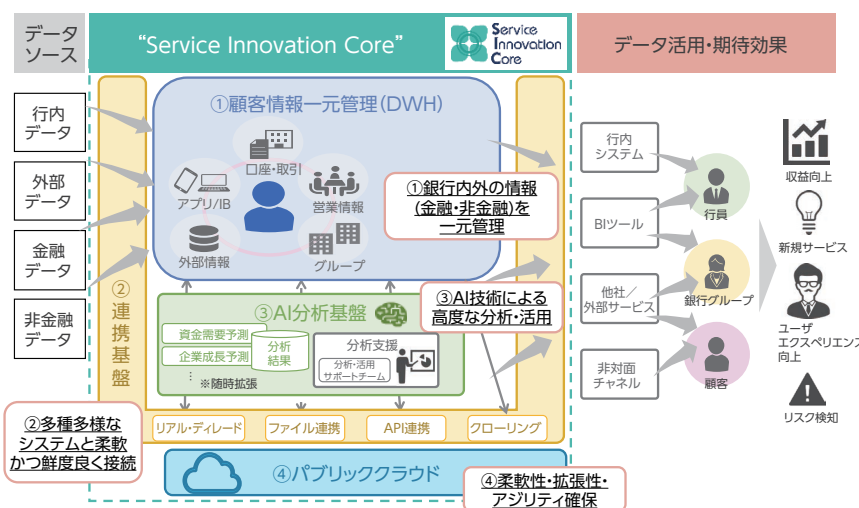


図 1 SIC の機能領域